



障がい者が親なき後も幸せに 生きるために ～生活力・適応力をどう育てていくか～

令和3年10月25日
練馬区教育委員会委託講座
子育て学習講座

社会福祉法人あかねの会
吉田 由紀子

1

社会で幸せに 生きるための心(力)

2

① 自立心

身近自立から始まり、社会的生活中で、依存しないで、自立していこうという力は、まず、全ての底辺になります。

3

② 自己統制力(我慢する心)

自分の欲求のままに生活していたのでは、必ず社会とのトラブルになってしまいます。

感情を抑制する力(欲しいのを我慢する、待つなど)

4

③感動する心

「花が美しい」「夕陽がきれい」

子供の頃から、周りの大人がヒトとしての感動を伝えて、ヒトがヒトである故縁です。

5

④人に合わせる心

周りの人の思い、速度に合わせる力がないと協力、協同生活が成り立ちません。

6

⑤ 自主的な心

④までの力がついてきても指示されなければ動けないのでは評価されません。自分から行動していく力をつけましょう。

7

⑥ 人のために役に立とうとする心(貢献性)

細かいことを言えば、もっともっと沢山ありますが。

8

どう育てるか？

9

① 自立心

～依存しないで一人でやる力を育てる

一人で起きる、身近自立、
何才まで手伝うか？

10

② 自己統制力

～待つ力を育てる

- ・家族全員が揃うまで食べないで待つ順番を待つ。
- ・貯金できるまで欲しい物を買わない。
- ・決められたお手伝いを決められた時までにする。

11

③ 感動

～親が感動を言葉にして伝える

花を見て「きれい」子犬を見て「かわいい」
お風呂に入って「きもちいい」「あったか～い」
ケーキを食べて「おいし～い」
お手伝いしてくれて「うれしい」「ありがとう」
高い木や山を見て「スゴ～イ」
人に迷惑かけて「かなしい」
空や海を見て「ひろ～い」「きもちいい」
親が感動を言葉にして伝えているか？

12

④人に合わせる力

～協力、協同の力を育てる 共感能

周りの人の思い、スピードを知り、それに合わせる経験を持つ。

- ・一緒にあるく(おばあちゃんと、犬と、自転車と)
- ・一緒に洗濯物をたたむ
- ・一緒にテレビをみる(自分のチャンネルにしない)

13

⑤自発性

～指示されなくても自分から行動する力を育てる

最初はきまったお手伝いを言われてやる段階から、言われなくてもできるようになったら大いに褒め、他の何かお手伝いも選択肢をあげ自分で選んで貰う。

季節に応じた洋服を選ぶ、購入できる。

親の好みと思いを押しつけて、大人になるまで育てているとこの力が育たない。

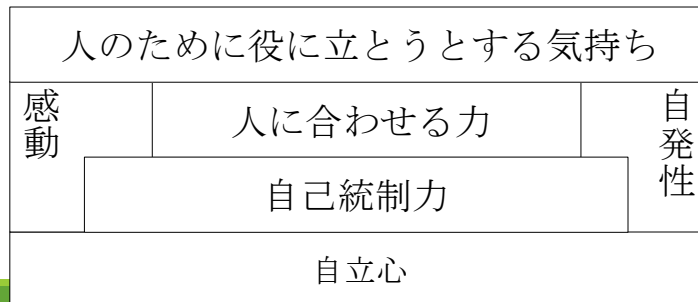
14

⑥人のために役にたつ力(貢献性)

～人の為にやったことに価値がある事を伝える

本当の生きがいをもって生きる。

→“われもこう”のように。



15



ご清聴ありがとうございました。

16